ハートフウンテン センチネル

Japanese Edition of HEART MOUNTAIN SENTINEL

Vol. II No. 45 (第五十五號) November 6, 1943.

ツーリレーキ轉住所の大騷動 遂に居住者側に廿名の負傷者

鶴嶺湖隔離センターの群衆が將に彈藥貯藏所を占據せんとする所を軍隊に射撃され二十人の負傷者を出した報道が金曜午後當地に達した。負傷の程度は判明しないが日本に歸國を表明して九ケ收容所より隔離收容された日系人が所内の行政に反抗して四日間に亘る示威運動の最高潮に達した際の出來事である。

ハート山の米人職員達は鶴嶺湖の同胞罷業に因り農産物收穫の爲に急據應募出働した百四名の安否を憂ふる住民を慰撫して、これらの人々の居所は不穩の中心地から六哩離れてゐるので全然心配は無用であると言つてゐる。尚五十名の應援隊を引續き募集してゐる。因みに右百四名中には八名の區支配人も加つてゐる。

白人醫師負傷 英字紙の報道

桑港の一英字紙は鶴嶺湖住民の代表委員たる十七名中の一開教使が管理部役員にたいして「吾等は如何なる事態發生するも其の責に任ずるを得ず」と揚言せる由を役員の一人であるコーゼン氏は漏したと報道した。コーゼン氏は建築場の白人番人が手荒く取扱はれて休んでをり負傷の程度は不明だが自動車は傷付けられレデオ受信機は取りはずされ、タイヤーからは空氣が拔かれた。訪問中のマイヤー局長始め廿五人の役員は密集せる群集の爲に一時管理部内に幽閉された。病院の手摺は叩き毀されギヤスタンクには砂が投げ込まれた事も聞いたと告げた。ベデイコード醫師は十人程の日系人と格闘して顔面に負傷した。

不祥事の起りは正午四千人計りの群衆が管理部へ集合し、一開教使が委員代表で行政に對する抗議を申込みし時の事で醫師の負傷が平和解決を願ふ委員達に知れた時は流石に困惑の表情を顔に表したと報道してゐる。

鶴嶺湖から十一名來住

今週鶴嶺湖から十一名の新入者があつたが、これらの人々の大部分は仕事の關係で出發が遲れたものであると。

日系勞働者の勤勉振を賞讃

デンバー轉住監督官ショート氏の語る所に依ると今年傳馬地方へ各センターより出働した立退者の手に依つて收穫した砂糖大根は七十四萬八千人に一ケ年分の砂糖を供給し得るとの事だが、七百人の立退勞働者はアダムス、ジエフアーソン及びアラバホの三郡に亘り六萬五千三百噸の砂糖大根を收穫した。之を精製すれば千八百六十六萬六千斤の砂糖となり、一ケ年一人の使用量を二十六斤とすれば優に桑港市の全人口を戰時下一ケ年供給し得る莫大なものである。

尚立退勞働者は單に砂糖大根のみでなく同地方に於けるレタス、キヤベツ、根菜、トメト、セロリ及びポテト等の收穫にも從事した。ショート氏の事務所に達した各方面よりの報告は何れも日系出働者の勤勉振を稱讃し戰時下人力不足の折柄その偉大なる貢獻にたいし一般米人は深甚の謝意を表してゐると。